

特別展「ふるさと 大分の日本画家たち」開催に伴う作家・作品等調査

大神 健二

1. 本調査の目的

私たちのふるさと大分は、明治後期から大正期にかけて文展・帝展で活躍し、1921年の「日本南画院」創設に尽力した田近竹邨をはじめ、「大分県美術会」結成に向けて中心的役割を果たした松本古村、官展重視の画壇から距離を置き、独自の創作活動を展開した高倉観崖、大阪を拠点に活躍した幸松春浦、文化勲章受章者の福田平八郎、高山辰雄といった、数多くの優れた日本画家たちを輩出している。

今回の調査では、明治から平成にかけて活躍した大分出身・ゆかりの日本画家たちを改めて調査し直すとともに、その成果を特別展「ふるさと 大分の日本画家たち」として観覧者に紹介することを目的として行ったものである。

中央公募展における実績や地元における日本画普及に大きく寄与した画家たちを調査した結果、田近竹邨(1864～1922)から、約100年にわたる大分出身・ゆかりの日本画家たちの画業の足跡を大分市美術館・大分県立美術館・別府市美術館・個人が所蔵する秀作により紹介することとした。

2. 作家調査

文展（後の日展）、院展、創画展、新興美術院展等の中央公募展における受賞歴や、地元における日本画普及に尽力した画家を中心に調査し、詳細は別紙1に整理した。調査した作家は計48名である。

3. 作品調査

詳細は別紙2に特別展「ふるさと 大分の日本画家たち」出品目録として整理した。調査した作品は、日本画78点である。

4. 作品図版

代表的な作品を撮影し、その一部を別紙3に整理した。

5. 解説パネル

展覧会を第1章から第6章で構成し、各時代における大分の日本画家たちの動向が分かるよう詳細を別紙4に整理した。

6. 関連年表

帆足杏雨や平野五岳が出品した1873年のウィーン万国博覧会から、1946年の大分県美術協会第1回展開催までの関連年表を調査し、詳細を別紙5に大分の近代美術関連年表として整理した。

7. 参考文献

※今回の展覧会を開催するにあたり下記文献等を参考とした。

大分県芸術文化振興会議「第4回大分県芸術祭 大分県美術百年展作品集」1968年10月発行
狭間久「大分県文化百年史」大分合同新聞 1969年2月15日発行
大分県画人名鑑刊行会「大分県画人名鑑」1978年10月22日発行
後藤龍二「大分の近代美術 明治・大正・昭和」1992年10月30日発行
後藤龍二「大分県近代美術史年表—明治・大正・昭和（～20年）—」1996年11月18日発行
大分県立芸術会館所蔵作品選図録 1997年6月3日発行
大分県立芸術会館「'80大分県美術総合選抜展」1980年1月発行
大分県立芸術会館「'81大分県美術総合選抜展」1981年1月発行
大分県立芸術会館「'82大分県美術総合選抜展」1982年1月発行
山崎芳直・菅久「大分銀行本店ロビー展美術時評集」1995年1月30日発行
菅久・十時良「大分銀行本店ロビー展美術時評集Ⅱ」2010年6月30日発行
大分県美術協会20周年記念誌「美を拓く大分」1984年発行
大分県美術協会40周年記念誌「大分県美術協会40年のあゆみ」2005年3月31日発行
大分県美術協会50周年記念誌「大分県美術協会50年のあゆみ」2015年3月25日発行

たじかちくそん
田近竹邨

【1864(元治元)年～1922(大正11)年】

竹田市生まれ。本名、岩彦。号、竹邨。1886(明治19)年、京都府画学校卒。在学中、田能村直入に師事。1895年、第4回内国勸業博覧会で褒状受賞。1896年、日本南画協会幹事。1897年、第1回全国絵画共進会で三等銅牌受賞。1910年の第4回文展から5年連続褒状受賞。1919年、帝展推薦作家。1921年、富岡鉄斎らを顧問とし「日本南画院」を結成した。

かのうほう
加納雨篷

【1866(慶応2)年～1933(昭和8)年】

臼杵市生まれ。本名、彦松。字、士秀。号、雨篷等。甲斐虎山や帆足杏雨に師事。1906(明治39)年、白須心華が東京で画塾を開いた際、甲斐虎山とともに賛助員として参加。1907年、南画会に《晩秋富岳》を出品し、宮内庁買い上げ作品となる。晩年は臼杵に帰郷し、その後、別府に移り住み、制作を続けた。

かいこざん
甲斐虎山

【1867(慶応3)年～1961(昭和36)年】

臼杵市生まれ。本名、簡。号、虎山。帆足杏雨に師事。1897(明治30)年頃、京都に移る。1906年、同郷の後輩、白須心華が東京で画塾を開いた際、加納雨篷とともに賛助員として参加。晩年は大分に帰郷し、県内各地で精力的な創作活動を続けた。

しらすしんか
白須心華

【1870(明治3)年～1939(昭和14)年】

臼杵市生まれ。本名、貞。字、季鑑。号、心華。1892(明治25)年、海軍省に勤務し、日清戦争、日露戦争の際には軍令部に所属する。甲斐虎山等に師事。1905年、真美会に参加し、翌年、同会委員となる。1906年、東京で画塾を開く。晩年は別府に居住し、創作活動を続けた。

ふじわらびじろう
藤原美治郎

【1872(明治5)年～1963(昭和38)年】

国東市生まれ。号、竹郷、竹卿、半農、鳳兮居士等。1898(明治31)年、東京美術学校日本画科卒。その後、大分県師範学校助教諭となり、以後、舎監、教諭を務めた。1907年、熊本県第一師範学校に転勤。大分県師範学校在職中は、田川豊山や首藤雨郊らに指導を行う。郷里における日本画教育の普及と後進の育成に努めた。

まつもとこそん
松本古村

【1873(明治6)年～1946(昭和21)年】

国東市生まれ。岩戸寺の吉武彦四郎の次男として生まれる。その後、松本亀山の娘婿となり、松本姓となった。1902(明治35)年、東京美術学校図画講習科卒。その後、三重県立上野中学校に勤務した後、大分中学校と大分高等女学校の兼務教諭となる。大分中学では、福田平八郎、片多徳郎らを指導。1916(大正5)年、画業に専念するため教職を辞す。1918年、渡仏。1921年、大分県美術会設立の中心的役割を果たした。

ひらのこそう
平野古桑

【1881(明治14)年～1935(昭和10)年頃】

竹田市生まれ。本名、要道。田近竹邨に師事。その後、京都・大阪に在住し南画を描く。1912(大正元年)、和歌山県南紀地方に滞在し制作を行う。1921年、九州沖縄八県連合美術展に《夏山雲望》を出品した。

たがわほうざん
田川豊山

【1881(明治14)年～1958(昭和33)年】

杵築市生まれ。本名、豊。大分県師範学校卒。在学中、藤原美治郎の指導を受ける。その後、上京し、東京美術学校教授の岡田秋嶺に師事。文検合格後、福岡県立中学校修猷館や長崎県立中学校嶋学館に勤務。1912(明治45)年から1914(大正3)年まで、大分県師範学校で教壇に立った。松本古村らと全国図画教育大会を開催するなど、郷土の美術の振興と発展に尽力した。

しゅうとうこう
首藤雨郊

【1883(明治16)年～1943(昭和18)年】

大分市生まれ。号、雨郊、雨功、九方皐。1905(明治38)年、大分県師範学校卒。その後、小学校教諭となる。1911年休職し、京都絵画専門学校に進学。図画科教員免許取得後、帰郷し、中学校教諭となる。1925(大正14)年、第6回帝展に初入選。1928(昭和3)年、第9回帝展、1930年、第11回帝展に入選。教育者としての業績は大きく、山本鼎の唱えた自由画教育論の指導的役割を大分で果たした。

まきこうどう
牧皎堂

【1884(明治17)年～1954(昭和29)年】

大分市生まれ。本名、照蔵。号、皓堂、皎堂、扇岳。1902(明治35)年、京都市立美術工芸学校に入学し、山元春拳、川北霞峰らの指導を受ける。その後、京都市立絵画専門学校に進み、在学中の1917(大正6)年、第11回文展に《孔雀》を出品し入選。1922年帰郷し、大分県立第一高等女学校教諭となった。一方で、大分県美術協会事務局長などを歴任。郷土の美術の発展と後進の育成に努めた。

たかくらかんがい
高倉観崖

【1884(明治17)年～1954(昭和29)年】

大分市生まれ。本名、孫三郎。1905(明治38)年、京都市立美術工芸学校卒。竹内栖鳳に師事。1914(大正3)年、第8回文展に《鴨川の春》を出品し初入選(同作は、サンフランシスコ万国博覧会にも出品され金牌賞を受賞)。その後、文展・帝展を主舞台に活躍を続けるが、1920年、審査基準に不満を持ち、帝展を脱退。官展重視の画壇にあって孤高の活動を展開した。

ふくだへいはちろう
福田平八郎

【1892(明治25)年～1974(昭和49)年】

大分市生まれ。1918(大正7)年、京都市立絵画専門学校卒。1921年、第3回帝展に《鯉》を出品し特選。以後、帝展・新文展・日展の主要作家として活躍。1936(昭和11)年、京都市立絵画専門学校教授。1947年、帝国芸術院会員。1961年、文化勲章受章。同年、大分市第一号名誉市民となる。

くさかりしょうこく

草刈 樵谷

【1892(明治25)年～1993(平成5)年】

竹田市生まれ。本名、辰生。佐久間竹浦に指導を受ける。1919(大正8)年、京都に移り田近竹邨に師事。日本南画院を主舞台に活躍。1924年、日本南画院院友。1942年、第5回新文展に《奔瀨図》を出品。1945年、竹田に戻り、翌年から竹田荘の管理に従事。一方で、田能村竹田の画風を学び、数多くの南画を描いた。1974年、竹田市名誉市民となる。

みぞべゆうそう

溝辺有巢

【1895(明治28)年～1983(昭和58)年】

大分市生まれ。1916(大正5)年、大分県師範学校卒。その後、高等小学校教諭となる。1918年、京都市立絵画専門学校に進学するが、2年後召集され同校を中退。1921年、九州沖繩八県連合美術展覧会に《紫式部》を出品。出征後帰郷し、1923年、第一高等女学校教諭となる。1965年、県内の美術協会、写真作家協会、書道協会が統合された際、初代会長を務めた。

わたなべうんせん

渡辺雲僊

【1892(明治25)年～1972(昭和47)年】

広島県生まれ。本名、俊彦。地元で学んだ後、京都で研鑽を積む。1917(大正6)年、耶馬溪の景勝にひかれ同地を訪ねて以来、草庵を構え耶馬溪各地を採勝する。その後、中津に居を構え、耶馬溪を訪ねながら、ひたすら景勝を描き続けた。その年月は約50年に及び、1,000点を超える作品を残したという。晩年は絵筆を置き、俳句に専念した。

かわむらりけん

河村李軒

【1895(明治28)年～1953(昭和28)年】

徳島県生まれ。本名、豊太郎。号、李軒、如水、雲烟室主人、来章堂等。1918(大正7)年、上京し、甲斐虎山等の指導を受ける。1920年、別府市に移住。1924年、日本南画院に入選。1928(昭和3)年、第9回帝展に《飛瀑》、1930年、第11回帝展に《盪壑》を出品し、入選。その後、日本南画院を主舞台に活躍を続け、同院院友となった。

ゆきまつしゅんぼ
幸松 春浦

【1897(明治30)年～1962(昭和37)年】

大分市生まれ。本名、猪六。佐久間竹浦や秦米陽に南画を学ぶ。1915(大正4)年、大阪に出て、姫島竹外に師事。1920年、第2回帝展に初入選。以後、同展を主舞台に活躍。1926(昭和元)年、1927年の帝展で特選。以後、無鑑査、推薦となる。1957年、大阪市民文化賞受賞。2008(平成20)年、「生誕110周年記念 幸松春浦展」が大分市美術館で開催された。

いけだえいこう
池田 栄廣

【1901(明治34)年～1992(平成4)年】

広島県生まれ。本名、栄。別府で牧皎堂や古荘九汀に指導を受ける。その後、堂本印象に認められ、1927(昭和2)年、東丘社に入塾。同年、第9回帝展に初入選。1946年、第2回日展で特選。翌年からは、院展にも出品する。院展では、安田靫彦に師事。1951年第36回院展、1954年第39回院展で奨励賞を受賞した。

みやざきたけお
宮崎 武夫

【1897(明治30)年～1980(昭和55)年】

津久見市生まれ。新興美術院展を主舞台に活躍。晩年、新興美術院理事となった。現在、大分県日本画協会会長を務める鈴木忠実も同氏の指導を受けている。県内における新興美術院出品者を数多く育てるとともに、県内における日本画の普及に尽力した。

たぐちさかん
田口 壮

【1910(明治43)年～1945(昭和20)年】

宇佐市生まれ。1936(昭和11)年、京都市立絵画専門学校卒。1934年、吉岡堅二、福田豊四郎らと「新日本画研究会」を結成。同年、第15回帝展に《喫茶室》を出品し初入選。1938年、新傾向の日本画を目指す仲間とともに「軌線美術」を結成。その後、岩橋英遠や山岡良文らと「歷程美術協会」を設立した。

まさいかずゆき

正井和行

【1910(明治43)年～1999(平成11)年】

兵庫県生まれ。本名、幸蔵。1938(昭和13)年、京都市立絵画専門学校研究科修了。在学中、福田平八郎に師事。1934年、第15回帝展に初入選。1937年、病氣療養のため大分市に転居。1948年から大分県立別府第二高等学校(現：芸術緑丘高等学校高校)講師として1952年まで勤務。日展を主舞台に活躍を続け、1972年第4回改組日展、1982年第14回改組日展で特選。晩年は、日展参与を務めた。

たかやまたつお

高山辰雄

【1912(明治45)年～2007(平成19)年】

大分市生まれ。東京美術学校卒。1934(昭和9)年、第15回帝展に初出品し初入選。1960年、日本芸術院賞、1965年、芸術選奨文部大臣賞、1970年、日本芸術大賞を受賞。1972年、日本芸術院会員。1975年から2年間、日展理事長。1982年、文化勲章受章。翌年、大分市第三号名誉市民となる。同年、高山辰雄賞ジュニア県美展(現在の高山辰雄賞ジュニア美術展)が始まる。

さとうつくし

佐藤土筆

【1911(明治44)年～2004(平成16)年】

竹田市生まれ。本名、博。大分県師範学校、京都市立絵画専門学校で学ぶ。その後、上京し、川端龍子に師事。以後、青龍社展を主舞台に活躍。1946(昭和21)年、同展で奨励賞、1950年、青龍社社人となる。1966年、川端龍子が没した後、青龍社社人有志と東方美術協会を設立。同協会発展のために努めた。

たがわすすむ

田川 奨

【1915(大正4)～1994(平成6)年】

杵築市生まれ。1939(昭和14)年、東京美術学校日本画科卒。その後、美術科教諭として教壇に立つ一方、県美展を主舞台に活躍。1968年、県内日本画の普及を目的として大分県日本画協会を設立。1975年から会長を務める。1975年から1980年まで、大分県美術協会副会長。県内における日本画の普及・発展に大きく貢献した。

くぎみやたいとう
釘宮對宏

【1920(大正9)年～1986(昭和61)年】

臼杵市生まれ。本名、保友。1938(昭和13)年、京都市立絵画専門学校に入学し日本画を学ぶが、半年程で中退、翌年、関西日仏学院に入学し油彩画を学ぶ。1948年から11年間、別府市内の中学校美術科代用教員を務めた。1959年、横浜市に転居し、創作活動に専念。2002(平成14)年、「一壮烈な画業一釘宮對宏展」が大分市美術館で開催された。

おのいちろう
小野一郎

【1923(大正12)年～1993(平成5)年】

杵築市生まれ。1945(昭和20)年、東京美術学校日本画科卒。1960年、第10回記念新興美術院展に《廃鋳》《赤い河》を出品し入選。以後、同展を主舞台に活躍。1963年、新興美術院会員(後、理事)となる。1975年、1977年、山種美術館賞展選抜出品。1986年、大分県立芸術短期大学名誉教授。県日本画壇を牽引するとともに、後進の育成に努めた。1993(平成5)年、従四位勲三等瑞宝章が授与。

むらかみこうほう
村上香峯

【1926(大正15)年～2008(平成20)年】

杵築市生まれ。本名、行。小野一郎に師事。1978(昭和53)年、第28回新興美術院展に初入選。以後、同展を主舞台に活躍を続け、1990(平成2)年、同院会員、2004年、同院参与・監査員となる。風景画を得意とし、多くの景勝地を描いた。

いわさわしげお
岩澤重夫

【1927(昭和2)年～2009(平成21)年】

日田市生まれ。1952(昭和27)年、京都市立美術専門学校日本画科卒。在学中の1951年、第7回日展に初入選。以後、同展を主舞台に活躍。1954年、堂本印象に師事。1992(平成4)年、日本芸術院賞受賞。2000年、日本芸術院会員となる。2001年、日展常務理事。翌年、勲三等瑞宝章受賞。2009年、金閣・鹿苑寺客殿障壁画を制作。同年、文化功労者となる。

木下章

【1927(昭和2)年～2017(平成29)年】

日田市生まれ。1952(昭和27)年、京都市立美術専門学校日本画科卒。上村松篁、奥村厚一に師事。1951年、新制作展に《初秋の頃》を出品し初入選。その後、同展を主舞台に活躍。新制作春季日本画展では、1959・60・61・62・63・64・65・66・68・69・74年に春季展賞受賞。1963年、京都市立芸術大学助教授。1979年、同大教授となる。1978年、日田市から特別功労賞を受けた。草花をテーマに作画を展開している。

宮崎喜恵

【1934(昭和9)年～】

別府市生まれ。1958(昭和33)年、大分大学教育学部卒。その後、小・中学校で20年間教諭を務める。1958年、県美展で奨励賞、1959年、大分市長賞、1960年、県知事賞を連続受賞。一方で、関西水彩画連盟展等でも活躍。1981年、日本画友の会を結成し、多くの後進の育成に努める。2014(平成26)年、「郷土在住作家展Ⅷ 菅玲子・宮崎喜恵展」大分市美術館で開催された。

詫間夢鳳

【1931(昭和6)年～2018(平成30)年】

別府市生まれ。新聞社、広告代理店、出版社等に勤務。1985(昭和60)年、中国に渡り水墨画を学ぶ。帰国後、水墨画教室の講師を務め、1997(平成9)年、大分県水墨画協会を設立し初代会長に就任する。その後、同協会名誉会長を務めた。2006年～2018年、若宮八幡宮(大分市)に、干支にちなんだ絵馬を奉納。2013年、大分市美術館で「郷土在住作家展Ⅶ 詫間夢鳳展」が開催された。

鈴木忠実

【1935(昭和10)年～】

大分市生まれ。独学で日本画を学ぶ。1968(昭和43)年、第18回新興美術院展に《海の町》を出品し佳作賞を受賞、同院会員となる。その後も新興美術院展を主舞台に活躍を続け、1980年、審査員、1991(平成3)年、理事、1998年、常任理事(2015年退会)となる。その間、日本美術協会賞(80・87年)、文部大臣奨励賞(93年)等を受賞。2001年、大分県日本画協会会長となる。2017年、「郷土在住作家展Ⅹ 鈴木忠実展」が大分市美術館で開催された。

みくつよしこ
御沓好子

【1935(昭和10)年～】

大分市生まれ。1981(昭和56)年、宮崎喜恵が主宰する日本画友の会に参加。県日本画展・県美展等を主舞台に活躍。県日本画展では、1986年、奨励賞、1990(平成2)年、NHK大分放送局賞・県日本画協会賞、2004年、県日本画協会優賞を受賞。県美展では、2003年、第39回展で県知事賞・OG賞を受賞した。草花を描いた作品に定評がある。

つゆきけいこ
露木恵子

【1943(昭和18)年～】

東京都生まれ。1968(昭和43)年、東京芸術大学大学院修士課程修了。田中青坪、吉田善彦に師事。1974年、第10回県美展で10周年記念賞受賞。1978年、大分大学教育学部助教授。再興日本美術院展を主舞台に活躍し、1979年、同院院友となる。1981年、宇都宮大学助教授(後、教授)。院展、グループ展、個展等出品多数。

いとうあじこ
伊藤阿二子

【1941(昭和16)年～】

熊本県生まれ。1964(昭和39)年、日本女子大学文学部卒。県美展・県日本画展を主舞台に活躍。県美展では、1986年、県美術協会優賞、2000(平成12)年、OG賞、2012年、県知事賞を受賞。県日本画展では、1990年、20周年記念賞・県知事賞、2014年、県知事賞を受賞。1999年、第8回英展で佳作賞。上野の森美術館大賞展にも出品し、1996年、優秀賞、2011、2012年、一次賞候補。現在、大分県美術協会名誉会員。日本詩人クラブ会員。大分県詩人協会会員。

あさくらみやこ
朝倉美彌子

【1944(昭和19)年～】

由布市生まれ。1966(昭和41)年、東京家政大学家政学部服飾美術学科卒。1995(平成7)年、武蔵野美術学園日本画科修了。2002年、春の院展に初入選。同年、第84回院展に入選し、同展院友となる。2002年の第1回、2004年の第2回前田青邨記念大賞展に入選。2003年、第1回奈良県万葉日本画大賞展に入選。日常の風景を切取るような作風に定評がある。

いまいぶんじ

今井文二

【1945(昭和20)年～】

杵築市生まれ。1970(昭和45)年、京都市立美術大学(現:京都市立芸術大学)専攻科終了。在学中、上村松篁、秋野不矩等の指導を受ける。1974年、第1回創画会展に初入選。以後、同展を主舞台に活躍を続け、1990(平成2)年、創画会賞を受賞する。1991年、文化庁現代美術選抜展に出品。

しゅとうのりこ

首藤詔子

【1947(昭和22)年～】

大分市生まれ。1970(昭和45)年、京都市立芸術大学美術学部日本画科卒。県美展を主舞台に活躍。1969年、70年、県知事賞、その後も、県美術協会20周年記念賞・OG賞、県美術協会優賞など多くの受賞歴を誇る。1992(平成4)年から翌年にかけて、大分合同新聞連載「大友宗麟」の挿絵を担当。2004年、大分市美術館主催「大分の現代美術14 首藤詔子展 生きている日々」がアートプラザで開催された。

はこざきむつまさ

箱崎睦昌

【1946(昭和21)年～】

佐伯市生まれ。1972(昭和47)年、京都芸術大学日本画専攻科修了。1974年、岸和田市久米田寺大師堂天井画を描く。1984年、第1回横の会に出品し、以後第10回展まで連続出品。1994(平成6)年、京都市主催「平安建都1200年記念 美術選抜展」に招待出品。2000年、信貴山玉蔵院(奈良県)に襖絵を奉納。2003年、京都迎賓館会議室の綴織り壁画下絵を手掛ける。同年、第21回京都府文化賞・功労賞を受賞。2015年、清水寺(京都府)に「清水寺平成縁起絵巻」を奉納。京都嵯峨芸術大学名誉教授。

しもとりしのぶ

霜鳥忍

【1947(昭和22)年～】

日田市生まれ。1969(昭和44)年、横浜国立大学教育学部美術科卒。1977年、第62回院展に《此土より》を出品し初入選。松尾敏男、中島清之、中島千波等に師事。1982年、春季創画展、1985年上野の森絵画大賞展に入選。1983年以降は伊勢丹浦和店をはじめとする各地の百貨店や画廊等で個展を開催している。

なかやまなおみ

中山直美

【1948(昭和23)年～】

大分市生まれ。1967(昭和42)年、大分県立芸術短期大学附属緑ヶ丘高等学校卒。1999(平成11)年、中国・西北師範大学敦煌芸術学院留学。県美展・県日本画展等で活躍を続け、県美展では、1984年、NHK大分放送局長賞、1989年、県美術協会25周年記念賞・OG賞、2002年、2007年、県知事賞、2011年、2012年、県美術協会優賞等、多くの受賞歴を誇る。日本画友の会に所属。県美術協会委員(代議員)、県日本画協会事務局長。

うえのみお

上野未央

【1948(昭和23)年～】

日出町生まれ。1964(昭和39)年、田川奨に師事。1971年、大分大学教育学部卒。1974年、加山又造に師事。同年、第1回創画会展に初入選。1981年、第17回県美展で大分県美術協会優賞、翌年、春季創画会展春季賞、他受賞。2006(平成18)年、大分市美術館主催の「日本画二人展×2」に出品。同年、上村淳之に師事する。

かんざきあけみ

神崎暁美

【1949(昭和24)年～】

長崎市生まれ。1972(昭和47)年、玉川大学文学部芸術学科卒。県美展・県日本画展を主舞台に活躍。県美展では、1994(平成6)年、エフエム大分賞、1995年、県教育長賞、2003、07年、県美術協会賞を受賞。県日本画展では、2002、19年、県日本画協会優賞、2003年、県教育長賞、2006年、県知事賞、2010年、県芸術振会議理事長賞を受賞。2011年、「神崎暁美日本画展」が朝倉文夫記念館で開催された。

ふじのけいこ

藤野啓子

【1951(昭和26)年～】

別府市生まれ。1971(昭和46)年、大分県立芸術短期大学美術科卒。県美展・県日本画展を主舞台に活躍。県美展では、1977年、大分商工会議所会頭賞、1998年、県美術協会優賞・OG賞、1999年、県知事賞を受賞。県日本画展では、2000、03年、県知事賞。この他にも多くの受賞を重ね、現在に至る。2002～05、07～08、10～11、14年、個展。大分県美術協会委員。

たかぎえつこ
高木悦子

【1954(昭和29)年～】

大分市生まれ。1977(昭和52)年、大分大学教育学部卒。県美展・県日本画展を主舞台に活躍。県美展では、1997(平成9)、06、10年、県知事賞、2014年、県美術協会優賞を受賞。県日本画展では、1998、06、10、12年、県知事賞、2011、17年、県日本画協会優賞を受賞。この他にも多くの受賞を重ね、現在に至る。2012年、「高木悦子展—愛の詩を奏でる—」が朝倉文夫記念館で開催された。

ながおかふみこ
長岡史子

【1954(昭和29)年～】

佐伯市生まれ。1989(平成元)年、宮崎喜恵主宰の日本画友の会に参加。県美展・県日本画展を主舞台に活躍。県美展では、1996年、大分県美術協会優賞・OG賞、1997年、大分県美術協会賞を受賞。県日本画展では、1995年、県知事賞・田川賞を受賞。その他にも、雪舟の里総社墨彩画公募展やけんしん美術展、個展等、精力的に出品を続けている。

みなみさとる
南 聡

【1965(昭和40)年～】

大分市生まれ。1991(平成3)年、多摩美術大学絵画科日本画専攻卒。1990年、第22回日展に《跡》を出品し初入選。以後、日展を主舞台に活躍を続け、2006年、第38回日展、2010年、第42回日展で特選を受賞。2014年、日展会員となる。現在、九州産業大学芸術学部准教授。

やのまり
矢野麻理

【1968(昭和43)年～】

久留米市生まれ。1990(平成2)年、大分県立芸術短期大学卒。県美展、県日本画展に主舞台に活躍。県美展では、1993年、挾間町長賞、1995年、奨励賞を受賞。県日本画展では、1996年、大分合同新聞社賞、2003年、県日本画協会優賞を受賞。2004年からは再興日本美術院展を主舞台に活躍し、現在、同院院友。2010年、第8回雪舟の里総社墨彩画公募展に入選。2013年より、大分武漢友好美術展をプロデュースしている。

特別展「ふるさと大分の日本画家たち」出品目録

No.	作家名	生年	出身地	作品名	制作年	寸法	素材・技法	所蔵先
1	加納雨篷	1866	臼杵市	春山山水図	1898	139.2×48.6	紙本墨画淡彩	大分市美術館
2	加納雨篷	1866	臼杵市	淡彩山水図	1925	155.8×36.2	絹本墨画淡彩	大分市美術館
3	田近竹邨	1864	竹田市	春秋山水図屏風（一双）	1912	各179.2×364.8	紙本墨画淡彩	大分市美術館
4	白須心華	1870	臼杵市	春景山水図	1913	135.5×51.0	絹本着色	大分市美術館
5	平野古桑	1881	竹田市	懸崖飛泉図	1915	135.8×41.5	絹本着色	大分市美術館
6	草刈樵谷	1892	竹田市	漁夫帰村図屏風	1928	153.5×298.0	紙本墨画淡彩	大分市美術館
7	田川豊山	1881	杵築市	耶馬溪風景	1933	210.5×239.5	紙本着色	大分県立美術館
8	高倉観崖	1884	大分市	四季山水図	1937	各143.4×53.4	絹本着色	大分市美術館
9	河村李軒	1895	徳島県	疎林秋晚図	1945頃	45.0×51.4	絹本着色	大分市美術館
10	幸松春浦	1897	大分市	山水図屏風	1924	156.5×172.8	紙本金地着色	大分市美術館
11	甲斐虎山	1867	臼杵市	匡廬暁翠図	不詳	180.3×96.4	紙本墨画	大分市美術館
12	田近竹邨	1864	竹田市	寒柯帰漁図	1921	128.5×88.5	紙本墨画淡彩	大分市美術館
13	藤原美治郎	1872	国東市	寿老寿鶴図	1928	各115.5×32.5	絹本着色	大分県立美術館
14	松本古村	1873	国東市	風雨渡船図	1930	154.0×145.5	絹本着色	大分市美術館
15	牧皎堂	1884	大分市	春日浦の景	1928	132.0×41.4	絹本着色	大分市美術館
16	牧皎堂	1884	大分市	南九州三大社図	1938頃	各127.7×40.8	絹本着色	大分市美術館（寄託品）
17	高山辰雄	1912	大分市	湯泉	1934	244.0×187.0	絹本着色	大分市美術館
18	高山辰雄	1912	大分市	壺	1943	129.9×75.9	紙本着色	大分市美術館
19	高山辰雄	1912	大分市	夕	1951	69.5×87.8	絹本着色	大分市美術館
20	高山辰雄	1912	大分市	山の音	1962	60.5×92.4	紙本着色	大分市美術館
21	高山辰雄	1912	大分市	丘の上	1973	134.0×215.0	紙本着色	大分市美術館
22	高山辰雄	1912	大分市	椅子に	1990	116.0×87.5	絹本着色	大分市美術館
23	高山辰雄	1912	大分市	燈	1985	211.5×139.5	紙本着色	大分市美術館
24	高山辰雄	1912	大分市	雨	2003	200.0×140.0	紙本着色	大分市美術館
25	高山辰雄	1912	大分市	豊後里道に月を見る	2005	153.8×100.0	紙本金砂子墨画	大分市美術館
26	首藤雨郊	1883	大分市	薩摩街道の冬	1921頃	167.8×376.0	綿本着色	大分市美術館
27	福田平八郎	1892	大分市	紫陽花孔雀図	1921	147.5×145.6	紙本着色	大分市美術館
28	福田平八郎	1892	大分市	白梅	1923	145.6×42.5	絹本着色	大分市美術館
29	福田平八郎	1892	大分市	光雪	1933頃	134.5×42.0	紙本着色	大分市美術館
30	福田平八郎	1892	大分市	雉子	1938	134.0×42.2	絹本着色	大分市美術館
31	福田平八郎	1892	大分市	鯉	1943頃	43.2×87.2	絹本着色	大分市美術館
32	福田平八郎	1892	大分市	紅葉虹	1947	61.0×88.0	絹本着色	大分市美術館
33	福田平八郎	1892	大分市	鮎	1958	48.5×75.5	紙本着色	大分市美術館
34	渡辺雲僊	1892	広島県	深耶馬溪錦豊	1936頃	240.0×120.0	絹本着色	大分市美術館
35	渡辺雲僊	1892	広島県	羅漢寺白光	1936頃	240.0×120.0	絹本着色	大分市美術館
36	溝辺有巢	1895	大分市	彩濱	1964	167.5×182.6	紙本着色	大分市美術館
37	宮崎武夫	1897	津久見市	海女	1960	71.5×104.5	紙本着色	個人蔵
38	池田栄広	1901	広島県	ニューファッション	1975	224.5×179.0	紙本着色	別府市美術館

大分市美術館 令和元年度（2019年度）調査・研究報告

No.	作家名	生年	出身地	作品名	制作年	寸法	素材・技法	所蔵先
39	正井和行	1910	兵庫県	鮎	1971	161.0×220.0	紙本着色	大分市美術館
40	正井和行	1910	兵庫県	発掘	1992	190.0×160.0	紙本着色	大分市美術館
41	田口壮	1910	宇佐市	季節の停止	1938	112.2×78.5	紙本着色	大分県立美術館
42	佐藤土筆	1911	直入郡	海幸	1946	183.0×132.0	絹本着色	別府市美術館
43	田川奨	1915	杵築市	望洋	1978	145.5×112.1	紙本着色	大分県立美術館
44	釘宮對宕	1920	臼杵市	化身	1978	190.0×194.0	紙本着色	大分市美術館
45	釘宮對宕	1920	臼杵市	作品A-3	1979	186.0×190.0	紙本着色	大分市美術館
46	小野一郎	1923	山香町	草のない原っぱ	1957	116.5×91.0	紙本着色	大分県立美術館
47	村上香峯	1926	杵築市	湯けむりの湯の花小屋	1990	172.0×345.0	紙本着色	大分市美術館
48	岩澤重夫	1927	日田市	晨暉(九重飯田高原)	1961	210.0×150.0	紙本着色	大分市美術館
49	岩澤重夫	1927	日田市	郷	1987	191.0×180.0	紙本着色	大分市美術館
50	岩澤重夫	1927	日田市	響	1988	191.0×168.0	紙本着色	大分市美術館
51	岩澤重夫	1927	日田市	輝やく峰	1998	220.0×145.0	紙本着色	大分市美術館
52	岩澤重夫	1927	日田市	清秋	1999	200.0×175.0	紙本着色	大分市美術館
53	木下章	1927	日田市	桃の春	2000	112.0×145.5	紙本着色	大分県立美術館
54	詫間夢鳳	1931	別府市	竹柏勁心	2007	69.6×77.6	紙本墨画	大分市美術館
55	宮崎喜恵	1934	別府市	ふたり	1983	160.5×128.6	紙本着色	大分市美術館(寄託品)
56	宮崎喜恵	1934	別府市	磨崖の佛さん	1999	160.5×110.5	画布着色	大分市美術館
57	鈴木忠実	1935	大分市	黒い聖母	1987	162.0×260.6	紙本着色	大分市美術館
58	鈴木忠実	1935	大分市	MATERA. I	2018	116.7×116.7	紙本着色	個人蔵
59	御杵好子	1935	大分市	寂光の中で一紅と白一	2007	112.1×162.1	紙本着色	大分市美術館
60	伊藤阿二子	1941	熊本県	きつねになる夜	2001	181.8×227.3	紙本着色、箔貼り	個人蔵
61	露木恵子	1943	東京都	雲に乗って(鈍豆)	2008	194.0×162.0	紙本着色	大分市美術館
62	朝倉美彌子	1944	由布市	燈光	2002	175.0×210.0	紙本着色	大分市美術館
63	朝倉美彌子	1944	由布市	塔のある風景	2005	140.0×70.0	紙本着色	大分市美術館
64	今井文二	1945	杵築市	桜桃	不詳	50.2×65.2	紙本着色	大分市美術館
65	今井文二	1945	杵築市	花の構図	2009	41.3×53.3	紙本着色	大分市美術館
66	箱崎睦昌	1946	佐伯市	早瀬	1998	182.0×582.0	紙本着色、箔貼り(下地)	大分市美術館
67	首藤詔子	1947	大分市	絵巻に偲ぶ	1985	162.1×130.3	紙本着色	大分市美術館
68	首藤詔子	1947	大分市	彼誰時	2016	116.7×91.0	紙本着色	個人蔵
69	霜鳥忍	1947	日田市	多聞天	1980	227.0×162.0	紙本着色、箔貼り	大分市美術館
70	中山直美	1948	大分市	農夫	2002	130.3×89.4	紙本着色	個人蔵
71	上野未央	1948	日出町	05創(いのち)-III	2005	181.6×227.3	紙本着色	大分市美術館
72	神崎暁美	1949	長崎市	野梅	2019	116.7×116.7	紙本着色	個人蔵
73	藤野啓子	1951	別府市	予感	2012	91.0×116.7	紙本着色	個人蔵
74	高木悦子	1954	大分市	宙	2006	130.3×130.3	紙本着色、箔貼り	個人蔵
75	長岡史子	1954	佐伯市	蔵にある	2014	116.7×182.0	紙本着色、箔貼り	個人蔵
76	南聡	1965	大分市	珪化木	1992	181.8×227.3	紙本着色	大分市美術館
77	南聡	1965	大分市	雨上がり	2006	182.0×227.5	紙本着色	大分市美術館
78	矢野麻理	1968	久留米市	故郷悠	2013	194.0×162.0	紙本着色、金泥	個人蔵



田近竹邨《春秋山水図屏風》1912年



田近竹邨《寒柯掃漁図》1921年



加納雨蓬《春山山水図》1898年

加納雨蓬《淡彩山水図》1925年



甲斐虎山《匡廬晚翠図》制作年不詳



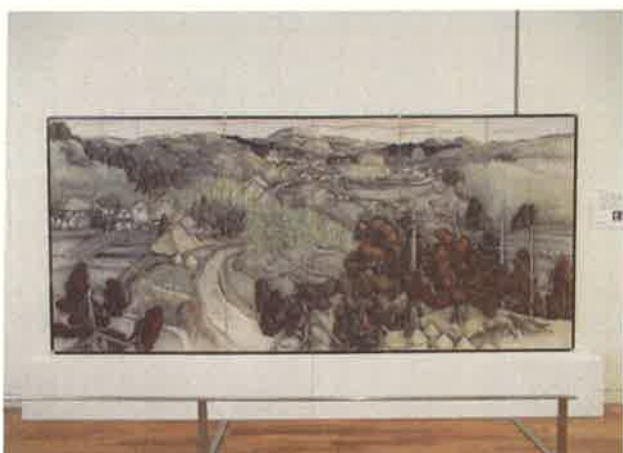
白須心華《春景山水図》1913年



松本古村《風雨渡船図》1930年



平野古桑《懸崖飛泉図》1915年



首藤雨邨《薩摩街道の冬》1921年頃

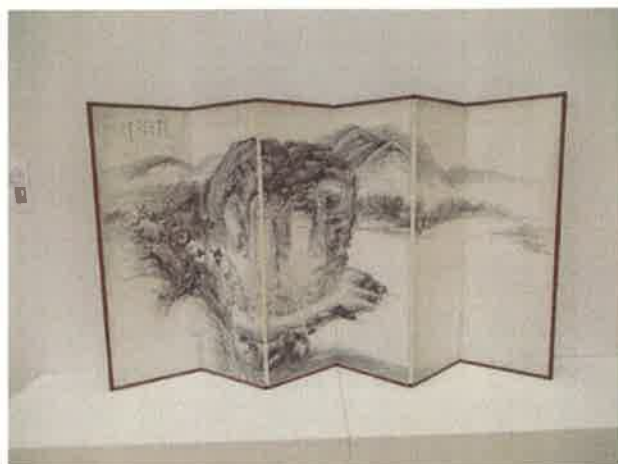


高倉観崖《四季山水図》1937年



牧岐堂《南九州三大社図》1938年頃

牧岐堂《春日浦の景》1928年



葦刈樵谷《漁夫婦村図屏風》1928年

福田平八郎



《雉子》1938年 《光響》1933年頃 《白梅》1923年 《紫陽花孔雀図》1921年

福田平八郎



《魷》1958年 《紅葉虹》1947年 《鯉》1943年頃



渡辺雲偶《深耶馬溪錦豊》1936年頃 渡辺雲偶《羅漢寺白光》1936年頃



溝辺有巢《彩濱》1964年



河村李軒《疎林秋晩園》1945年頃



幸松春浦《山水園屏風》1924年



宮崎武夫《海女》1960年



正井和行《群》1971年



正井和行《光》1992年

高山辰雄



《湯泉》1934年 《壺》1943年 《夕》1951年



《山の音》1962年 《丘の上》1973年 《椅子に》1990年

高山辰雄



《燈》1985年 《雨》2003年 《豊後里道に月を見る》2005年



釘宮對宥《作品A-3》1979年 釘宮對宥《化身》1978年



村上番峯《湯けむりの湯の花小屋》1990年

岩澤重夫



《郷》1987年 《晨曦（九重飯田高原）》1961年



《清秋》1999年 《輝やく峰》1998年 《響》1988年



誌聞夢鳳《竹柏助心》2007年



宮崎喜恵《ふたり》1983年

宮崎喜恵《庵産の佛さん》1999年



御峯好子《寂光の中で一紅と白ー》2007年



鈴木忠実《黒い聖母》1987年

鈴木忠実《MATERA. I》2018年



伊藤阿二子《きつねになる夜》2001年



朝倉美彌子《塔のある風景》2005年

朝倉美彌子《燈光》2002年



首藤詔子《彼誰時》2016年

首藤詔子《絵巻に唄ふ》1985年



中山直美《農夫》2002年



上野未央《05 削(いのち)-Ⅲ》2005年



藤野啓子《予感》2012年



神崎暁美《野梅》2019年



高木悦子《宙》2006年



長岡史子《蔵にある》2014年



矢野麻理《故郷恋》2013年



南聡《珪化木》1992年

南聡《雨上がり》2006年

第1章 日本初の公立画学校の設立

日本初の公立画学校の設立には、竹田出身の南画家、田能村直入が大きな役割を果たしている。1878(明治11)年、田能村直入、持月玉泉らは、京都府に画学校設立のための建議書を提出。これを受け、1880年6月、太政大臣三条実美により「日本最初京都画学校」(通称:京都府画学校)と命名され、7月に京都御苑内の旧准后里御殿仮校舎で開校式が行われたのである。開校の背景には、日本の近代化によりパトロンを失った京都画壇の円山派・四条派が危機に陥ったことや、美術界を立て直そうと市民の間から美術家養成機関としての近代的な学校を作ろうという声が高まったことなどが挙げられる。同画学校はその後、1891年に京都市美術学校、1894年に京都市美術工芸学校、1901年に京都市立美術工芸学校と改称。1909年には美術工芸学校の一部校舎を転用して京都市立絵画専門学校を新設・開校した。京都府画学校では、田能村直入らが中心となり後進を育成、大分県出身としては田近竹邨らが学び、その後、田近は平野古桑や草刈樵谷らに指導を行った。また京都市立美術工芸学校では、高倉観産、牧皎堂、福田平八郎らが学び(牧と福田はその後、京都市立絵画専門学校でも学んでいる)、牧は大分県立第一高等女学校で、福田は京都市立絵画専門学校で、それぞれ教壇に立ち、後進の育成に努めた。さらに、1889年に開校した東京美術学校(1949年に東京音楽学校と統合し、東京芸術大学と改称)では、藤原美治郎、松本古村、高山辰雄らが学び、藤原は大分県師範学校、松本は大分中学校と大分高等女学校で、それぞれ教壇に立ち、県下における美術教育の普及に大きく貢献した。このように京都・東京で日本画を学び、郷里に戻った画家たちは、1921(大正10)年の大分県美術会の設立に深くかかわるとともに、県日本画壇の育成に尽力したのである。

第3章 若き福田平八郎を支援した画家たち

文化勲章を授章し、大分市第一号名誉市民となった福田平八郎であるが、大分中学時代は「絵描きになりたい」と両親に打ち明け、猛烈に反対された時期がある。

福田の両親(父・馬太郎、母・安)は、当時、王子町にあった大分県師範学校近くで文房具屋を営んでおり、ひとり息子が、生活の安定しない絵描きになることに理解を示すことはなかった。頑なに反対する両親を説得したのが、当時、福田の実家二階に下宿していた小学校教師の首藤積(号は雨郊)である。首藤は、福田の画才を見抜き、美術学校への進学を勧め、両親を根気強く説得。当時、大分中学で指導した松本古村も福田の写生の上手さに舌を巻いたといわれている。また福田は、事前に高倉観産の住まいを訪ね、「絵描きになりたい」と相談したが、「絵かきになってもつまらん」と反対されたという。しかし、福田が京都市立美術工芸学校に進む際、同校卒業生の高倉と牧皎堂が推薦状を書き、さらに高倉は、福田の保証人となり京都に連れていったといわれている。また、高倉は高山辰雄のオジにあたる人物であった。

このように、首藤・高倉・牧の支援もあり、福田は京都へ行き、日本画を学ぶことができたのである。

第2章 明治から昭和初期における県日本画壇の状況

明治に入り近代日本画の普及により、理想世界を描く南画(文人画)は、古い昔の絵画と称され、次第に中央画壇での影響力を失っていく。しかし、大分においては依然として江戸時代後期における田能村竹田の活躍以後、南画人気は衰えることはなかった。その理由としては、竹田の影響下にあった帆足杏雨、田能村直入らが長命で、明治になっても優れた作品を描き続けたことなどが挙げられる。

明治後期になると、帆足ら次世代の画人が、次第に中央でも活躍を始め、田近竹邨は京都で、また、加納雨蓬、甲斐虎山、白須心華は東京で、南画を基盤としつつ、近代的表現を加味した意欲作を発表するようになる。

大正期になると、日本画家や洋画家の間で南画の主観主義的表現が目されるようになり「新南画」と呼ばれる作品も見られるようになった。さらに、新しい表現を模索する動きも広がり、1921(大正10)年、京都において若手南画家らを中心とした研究団体日本南画院が結成され、大分からも幸松春浦、草刈樵谷、河村李軒らが参加した。特に幸松は、昭和前期にかけ、日本南画院のみならず国主催の帝展、新文展にも精力的に出品を重ね、1927(昭和2)年に特選を受賞、以後、同展において無鑑査・推薦となっている。

このような状況を見る限り、県日本画壇は20世紀前半まで、南画家が主流となり活躍していたのである。

第4章 大分県美術協会の創設と歴代の会長たち

大分県美術協会は、1937(昭和12)年6月25日大分市の桜町クラブで行われた総会で産声をあげた。音頭を取ったのは、前年12月19日付けで大分高商(現:大分大学経済学部)校長として赴任して来た石丸優三である。外交官として欧米に駐在後、文部省学芸課長を務めた経歴の持ち主で、美術に対する造詣がひとときわ深い人物であったという。石丸は、県内にまとまった美術団体がないことを知り、組織の結成を模索。県内作家に参加を呼びかけ、武藤完一、菅一郎、松本古村ら27名がこれに応じた。その場で初代会長に石丸優三が、顧問に福田平八郎、朝倉文夫、首藤定がそれぞれ選出され、同年11月20日から大分県公会堂で第1回大分県美術協会展が開催された。しかし、同協会は、1943年の第10回展終了後、戦争による混乱の中、自然消滅した。

戦後、県美協を新たに再建しようと努めたのが、権藤種男、宮崎豊、早川正、中山和美、大分合同新聞記者の渡辺秀郎らである。彼らは、バラック建てのキムラヤ画材店に集まり、数度にわたり再建に向けての会合を持つ。再結成大会を1946年6月2日午後1時、大分市荷揚町国民学校で開催することを決め、消息の分かる限りの県内作家に案内状を発送。集まった作家は65人。初代会長には、権藤種男が選出された。

現在の大分県美術協会は、1965年に、旧大分県美術協会(日本画部・洋画部・彫刻部・工芸部)と、大分県書道協会、大分県写真作家協会の三つの団体を統合し、再結成したものである。

初代会長は、日本画家の溝辺有巢。以後、洋画家の宮崎豊、進来哲、浜田九一郎、仲町謙吉、脇正人、脇坂秀樹、渡辺恭英、彫刻家の合田習一、洋画家の小川善規、日名子金一郎が会長を務めている。

第5章 中央公募展の状況

日本画関連の中央公募展の状況は、以下のとおりであり、現在も様々な美術団体等が主義・主張を掲げ、精力的な活動を展開している。

日展

日展は、管轄する省等の変更や財団化によって名称が時代とともに変化している。1907(明治40)年、文部省美術展覧会(文展)→1919(大正8)年、帝国美術院展覧会(帝展)→1937(昭和12)年、文部省美術展覧会(新文展)→1946年、日本美術展覧会(日展)→1958年、社団法人日展(新日展)→1969年、社団法人日展(改組日展)→2014(平成26)年、社団法人日展(改組新日展)である。大分県出身者としては、田近竹邨、高倉観崖、牧皎堂、福田平八郎、幸松春浦、池田栄廣、正井和行、高山辰雄、岩澤重夫、南聡らが展覧会に出品している。

院展

岡倉天心や横山大観らが設立したのが日本美術院(院展)である。1898(明治31)年、日本美術院展→1914(大正3)年、再興日本美術院展と改称。大分県出身者としては、池田栄廣、露木恵子、朝倉美彌子、矢野麻理らが展覧会に出品している。

創画展

創画会(創画展)は、福田豊四郎や吉岡堅二らが設立した創造美術が母体となった美術団体。1948(昭和23)年、創造美術→1951年、新制作協会日本画部→1974年、創画会と改称。大分県出身者としては、木下章、今井文二、霧鳥忍、上野未央らが展覧会に出品している。

第6章 大分県日本画協会の設立と県日本画研究グループ

日本画愛好者を増やすことを目的として、田川奨らが中心となり、1968(昭和43)年4月に設立したのが大分県日本画協会である。大分県日本画協会は、同年、第1回大分県日本画展を開催、1971年に第2回展、その後、ほぼ毎年展覧会を行い、今年で49回展となる。更に同協会では、講評会や技術講習などを行い、県下における日本画教育・普及活動を展開。歴代会長は、初代会長が溝辺有巢(1974年まで)、二代目会長が田川奨(1993年まで)、三代目会長が南光雄(2000年まで)、四代目会長を鈴木忠実が務めている。

県内にはこの他にも日本画教育・普及活動を以下の研究グループ等が展開している。

そのの会・・・田川奨(1915年-1994年、杵築市生まれ)が主宰した日本画研究グループ。年二回の展覧会を開催し、その成果を発表。田川奨逝去後も、年一回の展覧会を開催。昨年まで、大分県立芸術文化短期大学教授、河上央が指導した。

萌葱の会・・・鈴木忠実(1935年、大分市生まれ)が主宰した日本画研究グループ。1970年に結成。岩絵具の「萌葱」が名称の由来。年一回の展覧会を開催し、その成果を発表。2016年に解散。

志炎会・・・鈴木忠実が主宰した日本画研究グループ。1978年に結成。年一回の展覧会を開催し、その成果を発表。2009年に解散。

日本画友の会・・・宮崎喜恵(1934年、別府市生まれ)が講師を務めた大分市民大学講座(日本画)の修了生たちが、講座終了後も研鑽に励もうと1981年に結成した日本画研究グループ。年一回

新興美術展

新興美術院(新興美術展)は、1937(昭和12)年に田中案山子らが日本美術院から独立して立ち上げた美術団体。大分県出身者としては、宮崎武夫、小野一郎、村上香峯、鈴木忠実らが展覧会に出品している。

この他にも、田近竹邨らが中心となり1921年に設立した日本南画院や、佐藤土筆が活躍した1929年設立の青龍社(1966年解散)などが知られている。

の展覧会を開催し、その成果を発表している。

舞鶴会・・・宮崎武夫(1897年-1980年、津久見市生まれ)が主宰した日本画研究グループ(新興美術院展出品者で構成)。宮崎武夫逝去後は、鈴木忠実が指導。1986年に解散。

八翔会・・・舞鶴会解散後、新興美術院展出品者たちが、1986年に結成した日本画研究グループ。三浦紘一、生野武雄、鈴木忠実、林久恵、吉田豊喜、森下政文、水野静子、石樽幸二、真鍋美代子らが第1回「八翔」展(ギャラリーまつむら)に出品。4~5回の展覧会を開催した後、解散。

浅葱の会・・・鈴木忠実が主宰する日本画研究グループ。岩絵具の「浅葱」が名称の由来。鈴木忠実が講師を務めた西日本文化サークル日本画講座(1975年-1999年)終了後、2002年に結成。2年に一回の展覧会を開催し、その成果を発表している。

こゝろの会・・・上野未央(1948年、日出町生まれ)が主宰する日本画研究グループ。年一回の展覧会を開催し、その成果を発表している。

この他にも、大分合同新聞文化教室(日本画)トキハ会館教室で首藤詔子(1947年、大分市生まれ)が、トキハ別府教室で中山直美(1948年、大分市生まれ)が、コトブキ屋絵画教室(日本画、デッサン)で高木悦子(1954年、大分市生まれ)が、(子ども絵画教室)で長岡史子(1954年、佐伯市生まれ)がそれぞれ指導を行い、美術の普及に努めている。

大分の近代美術関連年表

- 1873（明治 6）年 5月 ウィーン万国博覧会（1日～11月2日）に帆足杏雨、平野五岳等が出品。
- 1880（明治13）年 7月 京都府画学校が開校し、田能村直入が初代撰理（校長）となる。
- 1882（明治15）年 10月 第1回内国絵画共進会で田能村直入、平野五岳が銅印となる。
- 1891（明治24）年 この年、田能村直入が自宅に南宗画学校を設立。
- 1898（明治31）年 7月 藤原美治郎（竹郷）が大分県師範学校に赴任。
- 1902（明治35）年 1月 真美会が組織され、その後の第4回研究会で白須心華が最高点を得る。
- 1903（明治36）年 この年、松本古村が大分中学校兼大分高等女学校に赴任。
- 1906（明治39）年 この年、白須心華が南画塾を東京小石川に設立する。賛助会員として加納雨篷、甲斐虎山等が参加。
- 1908（明治41）年 10月 第2回文部省美術展覧会（以下文展）で田近竹邨が初入選・3等になる。
- 1910（明治43）年 10月 第4回文展で田近竹邨が褒状になる。
- 1912（明治45）年 4月 権藤種男が大分県女子師範学校に赴任。
- 1914（大正 3）年 4月 首藤積（雨郊）が大分県師範学校に赴任。
10月 第8回文展で高倉観崖が初入選・褒状になる。
- 1917（大正 6）年 10月 第11回文展で牧皎堂が初入選。
- 1919（大正 8）年 1月 松本古村が東京美術学校囑託により、図画教育調査のため渡仏。
3月 露草社絵画展覧会（大分県内初の美術団体展）開催。
10月 第1回帝国美術院美術展覧会（以下帝展）で福田平八郎が初入選。
- 1920（大正 9）年 10月 第2回帝展で幸松春浦が初入選。
- 1921（大正10）年 2月 大分県美術会発会式が行われる。
3月 第1回九州沖縄八県連合美術展が大分市で開催される。
10月 日本南画院創立。第1回日本南画院展に田近竹邨、草刈樵谷、幸松春浦等が出品。
10月 第3回帝展で福田平八郎が特選になる。
11月 第1回大分県美術展（大分市女子小学校）。
- 1923（大正12）年 10月 黎明社美術展覧会（福田平八郎、牧皎堂、首藤積、松本古村等）大分市糸園呉服店。
- 1924（大正13）年 5月 南豊美術会設立。
10月 第5回帝展で福田平八郎が審査員になる。
- 1925（大正14）年 6月 大分画壇設立。大分画壇第1回日本画部展覧会（河村李軒、牧皎堂、松本古村等）。
10月 第6回帝展で福田平八郎が展覧会委員になる。
- 1926（大正15）年 4月 別府美術展（日本画家約180名出品）。
10月 第7回帝展で幸松春浦が特選になる。
- 1927（昭和 2）年 6月 大分画壇第2回日本画部展覧会（甲斐虎山、白須心華、高倉観崖、草刈樵谷、幸松春浦、福田平八郎等）。
10月 第8回帝展で幸松春浦が特選になる。池田栄広、衛藤晴邨、吉田多希留が初入選。
- 1928（昭和 3）年 4月 別府市制5周年記念中外産業博覧会美術展覧会開催。大分県内外から日本画78点等計174点を展示。

- 5月 日本南画院作品展覧会（大分市糸園呉服店）。
10月 第9回帝展で首藤雨郊、河村李軒が初入選。
- 1929（昭和 4）年 6月 パリ日本美術展に幸松春浦、福田平八郎等が出品。
10月 第10回帝展で福田平八郎が元委員、幸松春浦が推薦になる。
- 1930（昭和 5）年 3月 第2回聖徳太子奉讃美術展に河村李軒、幸松春浦等が出品。
10月 第11回帝展で福田平八郎が審査員になる。佐藤終堂が初入選。
- 1931（昭和 6）年 1月 京都向陽社日本画展覧会が大分市大分会館で開催される。福田平八郎の作品等展示。
1月 大分県内における美術教育雑誌『郷土図画』創刊。
- 1932（昭和 7）年 10月 大分県美術家協会が設立される。
10月 第13回帝展で本広礼が初入選。
11月 大分県美術家協会第1回展覧会（日本画部 32名、43点）大分市大分会館で開催。
- 1933（昭和 8）年 5月 大分県美術家協会第2回展覧会（日本画部 26名、29点）大分市大分会館で開催。
11月 大分県美術家協会第3回展覧会（日本画部 30名、35点）大分市大分会館で開催。
- 1934（昭和 9）年 10月 第15回帝展で鍛冶照雄、正井和行、高山辰雄、田口壮、永井蓉畝が初入選。
11月 大分県美術家協会第5回展覧会（日本画部 27名、31点）大分市大分会館で開催。
- 1935（昭和 10）年 5月 大分県美術家協会第6回展覧会（日本画部 9名、10点）大分市大分会館で開催。
- 1936（昭和 11）年 2月 第1回改組帝展に衛藤晴邨、池田栄広出品。
10月 文展監査展に衛藤晴邨、池田栄広、鍛冶照雄出品。
10月 文展招待展に幸松春浦出品。
- 1937（昭和 12）年 11月 第1回青虹社美術展覧会（白須心華、甲斐虎山、池田栄広等）大分市トキハ百貨店。
11月 第1回新光会絵画展覧会（福田平八郎、首藤雨郊、松本古村等）大分市一丸デパート。
11月 大分県美術協会第1回展覧会（日本画 36点等）大分県公会堂。
- 1938（昭和 13）年 5月 大分県美術協会第2回展覧会（日本画 40点等）大分市一丸デパート他。
11月 第2回青虹社美術展覧会 大分市トキハ百貨店。
11月 第2回新光会絵画展覧会 大分市一丸デパート。
11月 大分県美術協会第3回展覧会（日本画 25点等）大分県公会堂。
- 1939（昭和 14）年 5月 大分県美術協会第4回展覧会（日本画 12点等）大分市トキハ百貨店。
11月 第3回新光会絵画展覧会 大分市一丸デパート。
11月 大分県美術協会第5回展覧会（日本画 35点等）大分県公会堂。
- 1940（昭和 15）年 5月 大分県美術協会第6回展覧会（日本画 17点等）大分市トキハ百貨店。
11月 皇紀二千六百年奉祝美術展・後期に福田平八郎、幸松春浦等が出品。
11月 皇紀二千六百年奉祝記念大分県美術協会展覧会（日本画 25点等）大分市一丸デパート。
11月 大分県文化協会発会式 大分県教育会館。
- 1941（昭和 16）年 11月 大分県美術協会第8回展覧会（日本画 23点等）大分市トキハ百貨店。
- 1942（昭和 17）年 4月 献納絵画展覧会（大分県美術協会主催）大分市一丸デパート。

- 1943（昭和18）年 11月 大分県美術協会第10回展覧会（日本画16点等）大分市トキハ百貨店。
11月 大分県文化報国会（大分県内の文化団体を整理統合）結成。
- 1946（昭和21）年 6月 大分県美術協会再発足結成大会開催 大分市荷揚町小学校。
11月 大分県美術協会第1回展 大分市トキハデパート。

ふるさと 大分の日本画家たち



福田平八郎《鮎》1958年

2019年6月15日(土)▶7月7日(日)

休館日：6月17日(月)・24日(月)

会場：大分市美術館企画展示室

開館時間：午前10時▶午後6時(入館は午後5時30分まで)

観覧料：一般800(600)円／高校生・大学生600(400)円／中学生以下は無料

※()内は団体[20人以上]料金。

※上記観覧料でコレクション展も併せてご覧になれます。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示者とその介護者は無料。

※本展は「大分市美術館年間パスポート」がご利用になれます。

主催：大分市美術館
後援：大分合同新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送 エフエム大分 J:COM大分ケーブルテレコム

 大分市美術館
OITA ART MUSEUM



田近竹邨《寒柯帰漁図》1921年



首藤雨邨《薩摩街道の冬》1921年頃



高倉観崖
《四季山水図(秋図)》
1937年



高山辰雄《燈》1985年



幸松春浦《山水図屏風》1924年

私たちのふるさと大分は、明治後期から大正期にかけて文展・帝展で活躍し、一九二一年の「日本南画院」創設に尽力した田近竹邨をはじめ、「大分県美術会」結成に向けて中心的役割を果たした松本古村、官展重視の画壇から距離を置き、独自の創作活動を展開した高倉観崖、大阪を拠点に活躍した幸松春浦、文化勲章受章者の福田平八郎、高山辰雄といった、数多くの優れた日本画家たちを輩出しています。

本展では、田近竹邨(1864~1922)から、約100年にわたる大分出身・ゆかりの日本画家たちの画業の足跡を大分市美術館・大分県立美術館・別府市美術館が所蔵する秀作の数々で紹介いたします。

講演会 (聴講は無料です)

■ 場所: ハイビジョンホール ■ 時間: 午後2時▶3時 ■ 定員: 80名 (先着順)

6月15日(土)

鈴木 忠実氏

(大分県日本画協会 会長)

6月22日(土)

渡辺 恭英氏

(大分県芸術文化振興会議 顧問)

展示解説 (観覧料が必要です)

■ 日時: 会期中毎週水曜日 午後2時▶(30分程度) ■ 場所: 企画展示室 ■ 解説: 当館職員



〒870-0835 大分市大字上野865番地
TEL:097-554-5800
FAX:097-554-5811

<http://www.city.oita.oita.jp/>→便利ナビ→大分市美術館



バス: JR大分駅上野の森口(南口)バスのりばから
中心市街地循環バス「大分きゃんバス」[大分市美術館方面]行 約7分
タクシー: JR大分駅上野の森口(南口)から約5分
車: 東九州自動車道/大分ICから約10分